

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112342
法人名	有限会社ケアランドあきた
事業所名	グループホームうららか
所在地	〒010-1414 秋田県秋田市御所野元町四丁目2番3号
自己評価作成日	令和5年2月3日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 p.jp/05/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyosyo

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内
訪問調査日	令和5年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高品質の認知症ケアというサービスを生産し利用者に提供するために、介護職員の働きやすさに主眼を置いている。採用時には経験より資格より知識より、何より現在の職員の中に組み込んでチームワークを構築できるかどうかを重要視している。(半面、各々がリーダーシップをとるのが苦手という側面も自覚している)またほとんどの日程において配置基準プラス1名を置き余裕のある現場を実現して、職員自身または家族が体調不良の際などに休みやすい＝休みを言い出しやすい体制を敷いている。この余裕が全国的に増加傾向である虐待と不適切な身体拘束の排除にも活かしているほか、これも全国的な人手不足への対策＝定着率の向上に役立っていると自負している。
看護師と施設長・管理者でもある経営者が常に現場に居ることにより機動力があり判断が早い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一つの枠に、はまらず施設の理念である「気ままに、ゆったり、マイペース」が生かされた介護が実践されており、利用者と職員の会話や接し方でも、とても良い関係が築かれている。管理者でもある経営者が現場にすることで、決断力や機動力に時間がかかることなく、利用者本位、職員本位の体制が築かれており、生活の場として、穏やかな日常を送る場としての体制づくりに努力している。高品質の認知症ケアというサービスを生産し利用者に提供するために、介護職員の働きやすさに主眼を置き、職員の定着率がよく職員の気持ちの余裕が良い介護に繋がっているものと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気ままに・ゆったり・マイペース」という中核の理念は玄関・事務室に掲示しているほか、紙媒体のリーフレット、ウェブ媒体にも掲載し、経営者および職員は実践の基準としている。	「気ままに・ゆったり・マイペース」という中核の理念は玄関・事務室に掲示し、毎日の朝礼で唱和している。理念に沿って、職員の時間でなく利用者の時間の流れに合わせる支援を実践の基準としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームとして町内会に所属している。施設長は今年度の班長を務めており総会の議長を務めたこともある。認知症カフェ開催時は案内チラシを回覧板で回してもらっている。	ホームとして町内会に所属し、今年度は、施設長が町内会の班長を務めている。以前は、セラピードッグや民謡、化粧ボランティア等を受け入れ、地域住民を招待し地域との関係性を大切にしていた。コロナ禍で、地域との付き合いは思うようにできていない状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ前は認知症カフェをはじめ外部の方をお招きしていたほか町内のイベント・行事にも可能な限り参加していたが、現在は見合わせている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括の職員を中心に民生委員・町内会役員・ご家族・同業事業所職員で構成されている。代表者はじめ職員も他のグループホームの運営推進会議に参加しており、交流が図られている。このたびの記録電子化のきっかけにもなった。	運営推進会議は定期的開催されており近隣の他事業所職員の参加もあるがコロナで今年度は2回しか開催されていない。ほかの事業所への運営推進会議に参加し自施設の記録の電子化にして業務の見直し効率化が図られている	ここ2回の開催は、施設から書面で報告の内容となっています。参加確認の連絡票を送るときに、参加メンバーから意見や質問等を受け、それについて検討・話し合いすることによって、よりよい支援に反映される事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方針として市職員は運営推進会には参加しないとのことであるが、秋田市認知症グループホーム連絡会(ケアパートナーズ)を組織し、市職員を招いて研修を実施している。	グループホーム間の空室情報のシェアがされ、またグループホーム連絡会の研修や包括支援センター主催の研修で、認知症等の必要な情報を収集している	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な身体拘束の事例と実施する場合の要件をミーティング・内部研修で共有している。玄関の施錠も人権侵害になることを周知し緊急時および安全優先時以外は施錠していない。	全職員は身体拘束をしないための研修をしてケアに取り組んでいる。玄関の施錠を含め、現在拘束を必要とする利用者はいない	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	協会の教材や研修資料を用いてミーティングの際に共有している。平成30年の介護報酬改定に伴って、虐待と身体拘束廃止についての委員会を設置し運営推進会議に併設、年数回の研修を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期不定期に文書及び電話、または来所の際に意見交換を図っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	主に事前面談または入居開始時の打ち合わせで行っているほか、随時ケアマネ・看護師または施設長から電話または面会時に対話を図っている。	家族の意見はケアプラン更新時や、外来受診時などの機会をとらえて意向確認をし、ミーティング時に検討している。その他、毎月、担当職員がご家族にお便りを送っており、その時に要望等を聞いている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	代表者が最前線にいる職場であり、ミーティングは当然として業務の傍らにも対話している。	毎月開催しているミーティングで、職員が意見を述べている他、管理者が常に職場にいるため業務の中で、意見交換をしている。職員から施設長に提案をして、レクや食事・おやつの内容を変更をしている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	15年前に代表者が発起人となって設立された市内同業者の連絡会は研修の開催、待機者情報のシェア、非常時の連携などで機能している。また近隣の事業所間では各運営推進会議に相互に参加して交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	根本的に不可能な事柄以外については実現できている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	良好にして評価の言葉をいただいております。家族を含めたケアチームを構築できている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	擬似家族の生活の場となれているようである。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居開始の際は原則的にご家族もチームケアの一員として可能な限りの協力をお願いしており、関係性の継続についても支援している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご友人やご近所の方との面会や手紙のやりとりもご家族の確認を得たうえで支援している。	コロナの前までは親類や友人の面会を受け入れまたアニマルセラピーなどのボランティアの受け入れがされていた。現在はコロナの影響で、面会も、リモート面会になっている。	利用者には他者との交流の刺激をボランティアの方たちには発表の場をとっても良い関係であると感じました。以前のように今後も交流を続けられることを期待します。
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうしのトラブルに配慮しながら共通の嗜好についての話題作りやレクリエーションへの誘導など「とりもつ」介入を行っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーの作成など転居先施設への情報提供は可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	「気ままに・ゆったり・マイペース」の理念のもと努めている。必ずしも定められた時間・スケジュールによらない。	利用者の希望や意向を把握し、施設の理念である「気ままに、ゆったり、マイペース」の理念のもと職員が、利用者ペースに合わせ、お互いに助け合うことが自然とできている様子が伺えた。一人ひとりの思いや暮らし方に添った支援に努めている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴と直前までの生活環境も重要な引継ぎ情報として提供をお願いしてサービス提供に利用、とりわけ本人の意思確認が困難な場合の判断材料としている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ケアマネ、看護師、施設長を中心とした担当者会議の内容をもとに原案をつくり、そこにご家族の意見を反映させるプロセスであるが、運営推進会議からのアイデアが盛り込まれることもある。	生活中心の介護計画であるが管理者、介護支援専門員、看護師が中心となり、(ご家族の意向も入れ)サービス担当者会議を実施し、月1回のミーティングの場を利用し、ケースカンファレンスを行っている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	実践している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現時点ではコロナの影響で見合わせているが、近隣公園、イオンモール、散歩道など恵まれた環境にあるため活用している。ボランティアが来訪され歌や手遊びを楽しむほか不定期ではあるが地域の子どもたちとの交流も見られている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけとして米山消化器内科とスプリング調剤薬局、おのば歯科。一部、秋田往診クリニック。このほか個別の精神科または認知症専門外来を受診している。その他、家族の希望に応じて入所前の医療機関を継続して受診するケースもある。	入所時にかかりつけ医師、かかりつけ薬局の確認をしている。中には入所前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。また、往診してくれる医療機関もあり、個別の対応をしている。受診には家族、看護師が必ず同行し、情報交換の機会としている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として配置されている看護師が24時間オンコールで対応可能であり、ホーム・医療機関・ご家族これらの仲介役となって関係づくりに貢献している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ほとんどのケースで病院の医療相談室の職員と連絡を取り合いながら経過を見守っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前後に退去時のことを視野に入れた内容の説明をしている。重度化への指針を基に概ね特養施設への転居または急性症状で入院して復帰困難になる場合もあることを説明している。	退去時のことを視野に入れた内容の説明をしている。重度化への指針を基に概ね特養施設への転居または急性症状で入院して復帰困難になる場合もあることを説明している。看取りについては、看取りをしていた医師が死亡したため、引き継いでくれた医師からは、看取りができないと言われており、看取り可能な医師との契約ができていないのが現状とのことである。	医療の協力を得られないため、看取りは行わない方針としていますが、特養入所が決定した後、ご家族からの反対で中止となったケースもあることから、一度方針を決めても本人やご家族の思いは変わります。施設の力量や体制も踏まえ、ニーズに応えられるよう体制を整えていく努力が求められます。
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設長(管理者)と看護師が常に連絡がつく体制にしてあるほか、近年はSNS(LINE)を使用した緊急連絡訓練を行っている。年2回の避難訓練には消防署員の指導のもと心肺蘇生法などの訓練を行っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地的に水害はあり得ない立地でありハザードマップからも避難計画作成義務が無い地域であるので、火災・地震を想定した対策を講じている。指定避難所のみならず公民館の利用も町内会と協議している。これらを踏まえBCP策定を急ぐ。	発電機や食料などのほかに台所にガスコンロ用LPガスを配管している。施設としては指定避難所のみならず公民館の利用も町内会と協議している。これらを踏まえBCP策定も考慮している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親近感と立場・マナーの兼ね合いについて意識しながら業務に就くことへの試行錯誤は絶えることはなく、そうしながら未来に繋げる必要がある。日常業務の傍らおよび職員研修で折に触れて取り上げている。	職員一人一人が利用者に対する言葉使いは丁寧で、人格を尊重するものであった。訪問時、トイレ対応は、さりげない声かけがされていた。また、本人の行動を想定した対応がなされていた。	一人ひとりを尊重した支援を行っていますが、居室の家具(タンス)に排泄用品が置かれており、廊下からも見えています。プライバシーに配慮した改善を望みます。
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師資格をもった職員が定期的に散髪を担うこととなった。散髪のみならずブロー・セットも本人と話しながら進めている。訪問理容は有料であったが現在のこれはサービスの一環で無料である。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の世代の移ろいに伴いメニューも更新し続けている。コロナが沈静化した暁には外食レクも可能な範囲で再開していきたい。献立の作成・検討はQOLに直結する。最も注力したい分野である。	食事時テレビもついているが、穏やかなBGMが流れ、利用者が楽しく食事ができるように工夫されていた。食後は、下膳する利用者も数名おり、その後、利用者の声かけで、みんなで「ごちそうさまでした」の挨拶をし、後片付けも利用者が行っている。可能なことを役割を持って行っている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕3食および午前午後のお茶・おやつ、これらの定期摂取にとらわれず、随時欲しい時に提供できるようにしている。また職員から進める場合もある。夏は冷たすぎないよう温度にも配慮している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い歯磨きや義歯の清掃を行っているが強制することはない。かかりつけの「おのぼ歯科クリニック」による訪問診療や義歯の調整を行っている。アドバイスを求めることもある。口腔ケア加算取得が検討される。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意欲・能力・習慣はできるだけ活用できるようにしている。夏場であればシャワー浴と組み合わせて清潔保持に努める。転倒防止のため離床センサー発報から介助に入れるようにしている。	利用者の排泄パターンの把握をして、排泄用品の工夫やトイレ誘導の声掛けは個々の状態に合わせて行われていた。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤・整腸剤に頼り切るのではなく、乳酸菌飲料やオリゴ糖を毎日摂取し、軽い運動も促すなど複合的に対応している。下剤の使用・増減・坐薬使用は看護師が中心となって管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤で色と香りも楽しめるようにしている。入浴が好きな方にはできる限り、嫌いな方でも週に1回か10日に1回でも入ってもらえるよう促している。なかなか完全に好きな時間に、とはいかないが、夏場であれば入浴日以外でもシャワー浴のみの日を設けて柔軟に対応できている。	入浴は、週2回の他土曜日も入浴できることとしている。利用者の状態に合わせて1対1で行われているが、加齢に伴い一人介助が無理な場合は、二人介助にして対応している。入浴を拒む利用者には、声かけを工夫し誘導しており、一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホーム配置の看護師を中心に医療機関および調剤薬局のアドバイスを得ている。特に薬局には錠剤の粉砕や複数種の一包化など細やかな対応をもらっている。向精神薬系の調整は専門医の診察を以て行っている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援できている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	事前に体制を整えたうえで、またはご家族の協力を得て行っている。「その日の希望によって」というのは簡単ではないが当日の体制によって対処したい。外出した事実や行先など記憶に残らないことが多いので可能な範囲で写真で残すようにしている。	事前に体制を整えたうえで、またはご家族の協力を得て、出来る限り外出できるようにしている。日常的な外出支援はできていないが、回覧板を届けたり、春には、近くの公園に散歩に出かけている。外出時は写真に残して利用者と写真を見てその時の話をしたりしている。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点では預り金の取り扱いの対象者はいないが、かつては対応したことがある。金銭管理ほか購入後の飲食物の行方など安全確保と「本人がお金を持つことの大切さ」とのトレードオフは当ホームでは負担のほうが大きく結果、方針として立替代理購入を主としている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手狭かつ雑然としがちであるので整理整頓を心掛ける。その他は概ね達成できていると思われる。	共有スペースは、明るく清潔感があり、廊下の所々に可愛い椅子が置かれている。食堂のテーブルには花が飾られ、季節を感じることができる工夫がされている。共有空間は利用者の安心につながる居心地の良い空間づくりをしている配慮を感じた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手狭な事業所であり「独り」と「大勢」の中間的なスペースの創出は開設以来の課題である。「見慣れた人たちの姿は見えるけれども独りで静かに居たい」という居場所をやりくりしてつくりたい。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・テレビなどは、できれば入居前からの使い慣れたものを持ってきて頂きたいと告げている。人によっては写真立て・位牌・仏壇なども持ち込まれるので関係性の継続に役立っている。	利用者の居室は入居前に使用していたものが持ち込まれており、生活の継続性や居心地の良さに配慮していることを感じた。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人権を尊重し身体拘束をしないケアは事故防止とのせめぎ合いでもある。どこまでやるのか家族とも個別に共有が必要であるが、職員ですらもいざ現実としたとき安全確保への認識の差異が個々にある。永遠の課題である。		